

決 議

フリーアクセスを保障する日本の医療保険制度は、WHOなどからも世界最高の制度であると評価され、国民の健康を守る上で果してきた役割は計り知れない。

しかしながら政府は、医療費増が国家財政悪化の元凶と称し、医療費抑制策をはかり、医療制度改革では自らの失政の穴埋めを、患者負担増や診療報酬引き下げといった形で国民や医療機関に求め、さらに株式会社参入や混合診療導入を足掛かりとして医療保険制度そのものを崩壊させ、国民の生存権の保障という最低限の義務すら放棄しようとしている。

特に自由競争を是とする米国発の市場原理主義者と財務官僚に依存した小泉内閣が我が国にもたらしたものは、不安と混乱、失意と絶望のみであり、その罪は決して許されるべきものではない。

我々には、全ての国民が安心して良い医療を等しく受けられる日本の優れた医療制度を守り発展させていく責務がある。今や崩壊寸前にある医療制度の危機的状况に鑑み、我々は左記の事項を強く主張する。

記

- 一、健康や生命を軽視する小泉内閣の即時退陣を要求する。
- 一、医の倫理を顧みない株式会社 of 医業経営参入を断固阻止する。
- 一、制限医療や差別医療に繋がる混合診療導入に断固反対する。
- 一、良質で安全な医療提供のための財源確保を要求する。
- 一、国民の健康を守るため患者負担の軽減を要求する。
- 一、不合理を極める消費税増税の解消を強く求める。

右、決議する。

平成十六年三月六日

第九十六回 札幌市医師会定時代議員会